令和元年度
三条市学校給食残量調査
結果報告書

三条市教育委員会　教育総務課

令和元年度三条市学校給食残量調査

１　目　　的　　子供たちの給食の喫食状態を把握し、食育の推進及び学校給食を充実させるための資料とする。

２　期　　間　　令和元年 12 月中の２日間

３　調査対象校　　令和元年度からドリンクタイムの実施時間帯を変更した学校
井栗小学校、月岡小学校、栄中央小学校、大浦小学校
第四中学校、大島中学校

４　対象学年　　小学校３・４年生、中学校１・２年生

５　調査方法

(1)　提供量（kg）と残食量（kg）を計量し、残食率（%）を算出した。
(2)　主食と牛乳は学校で計量し、その他は調理場で計量した。
(3)　調理場ごとの献立で実施した。
(4)　残量調査を実施することを児童生徒には伝えなかった。

6　結果概要

(1)　全体の残食率

【副菜】
小学校 7.7%
中学校 6.7%

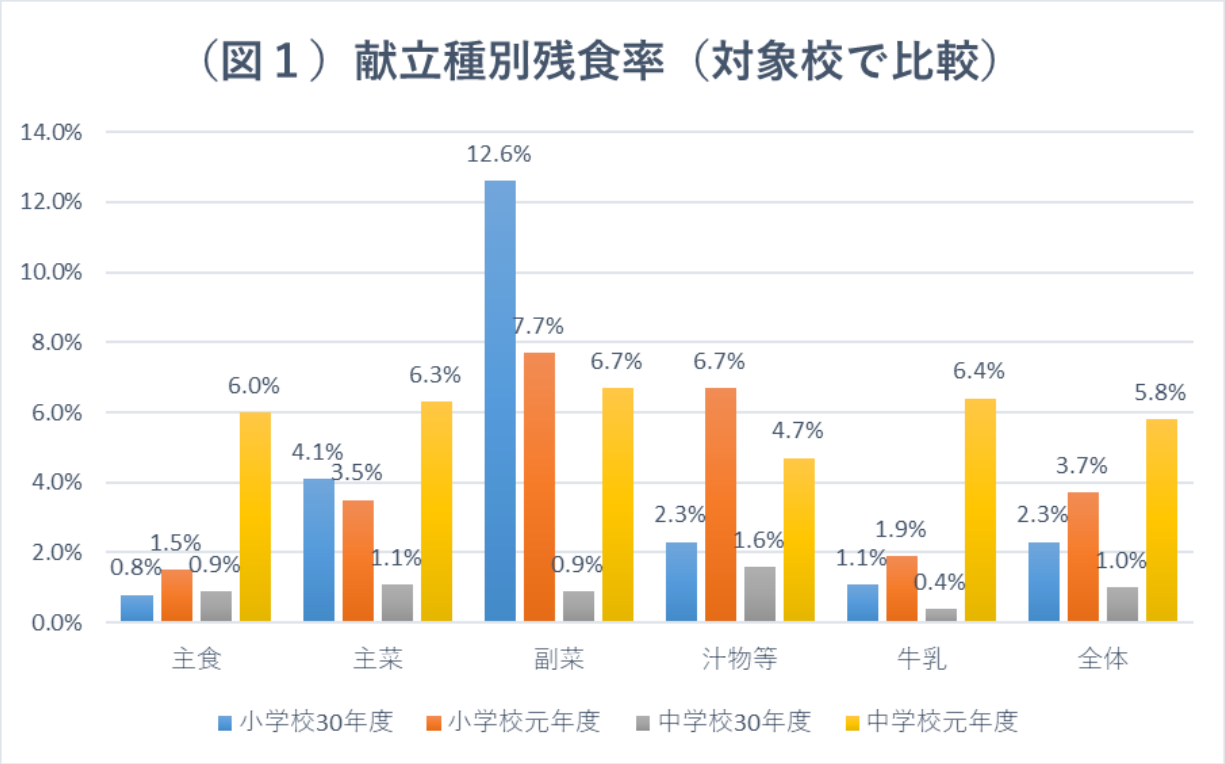
【主菜】
小学校 3.5%
中学校 6.3%

【牛乳】
小学校 1.9%
中学校 6.4%

【主食】
小学校 1.5%
中学校 6.0%

【汁物等】
小学校 6.7%
中学校 4.7%

【全体】
小学校 3.7%
中学校 5.8%

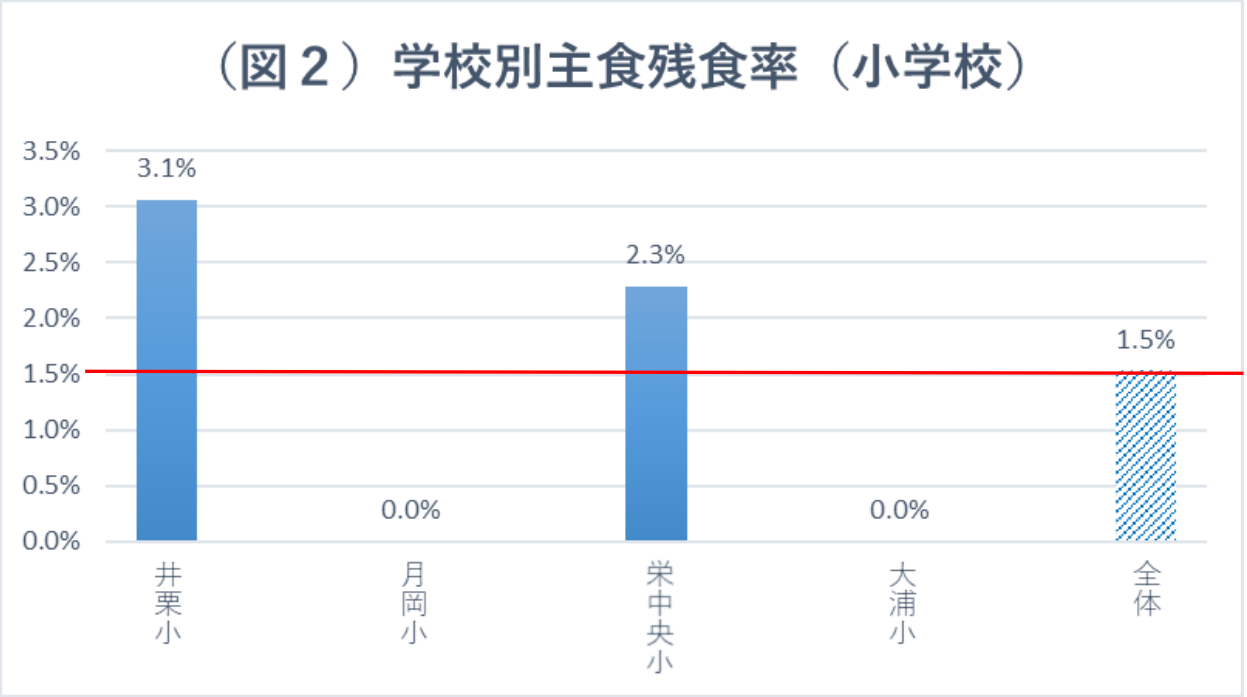


小

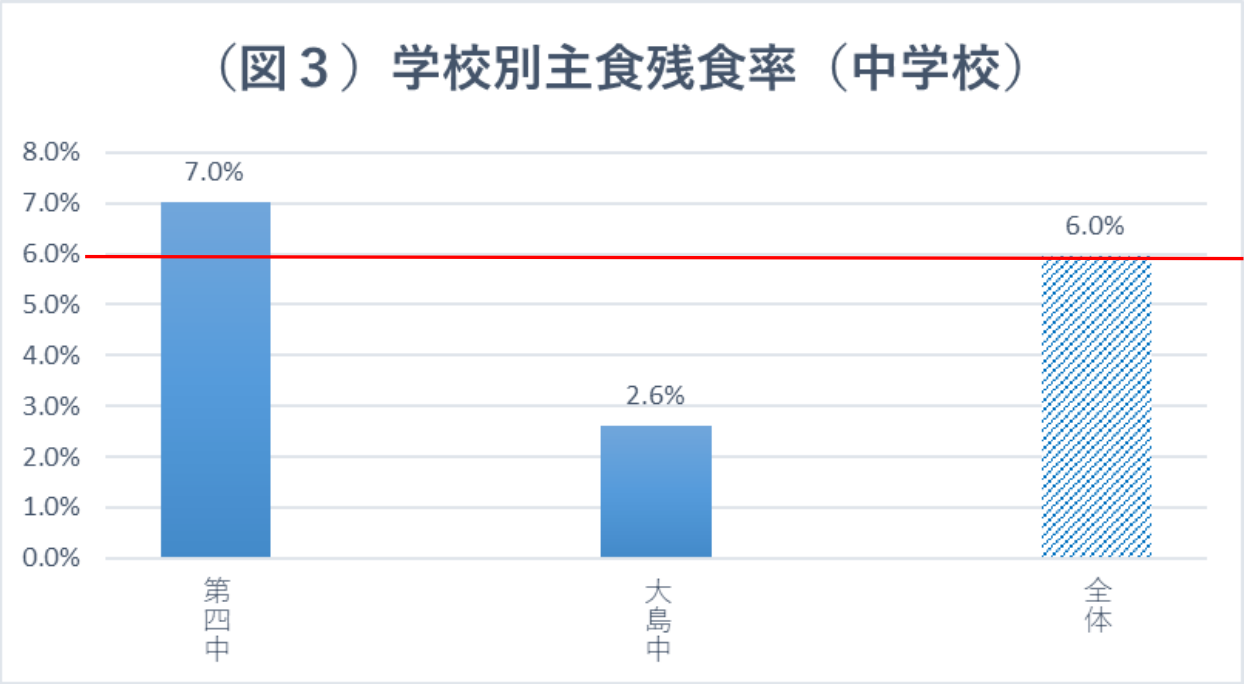
(2) 献立種類別残食率

ア　主食

（ア）　小学校

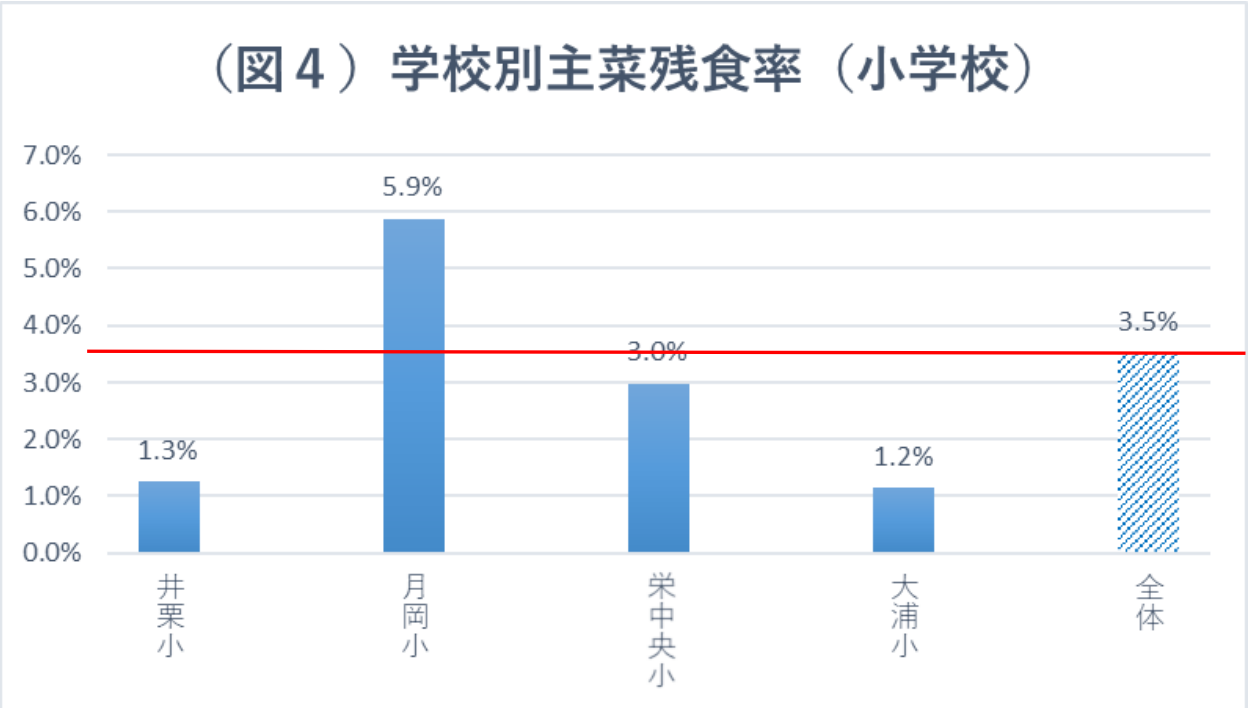


（イ）中学校

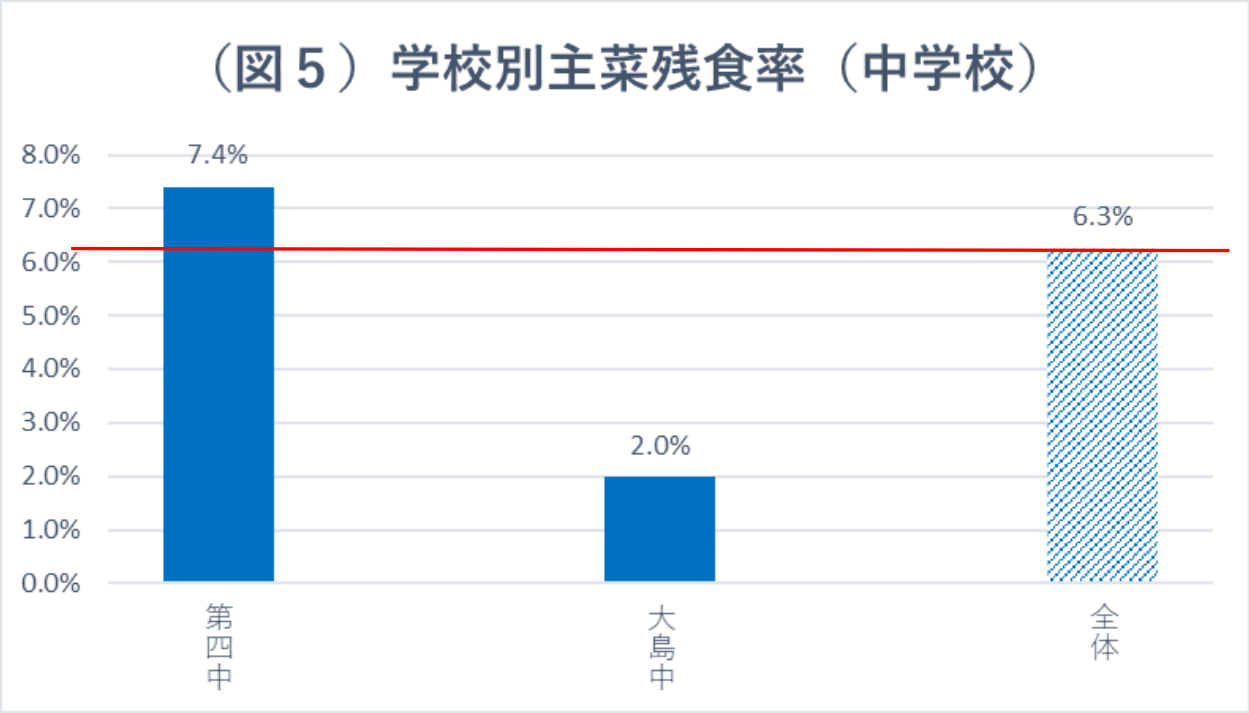


イ　主菜

（ア）　小学校

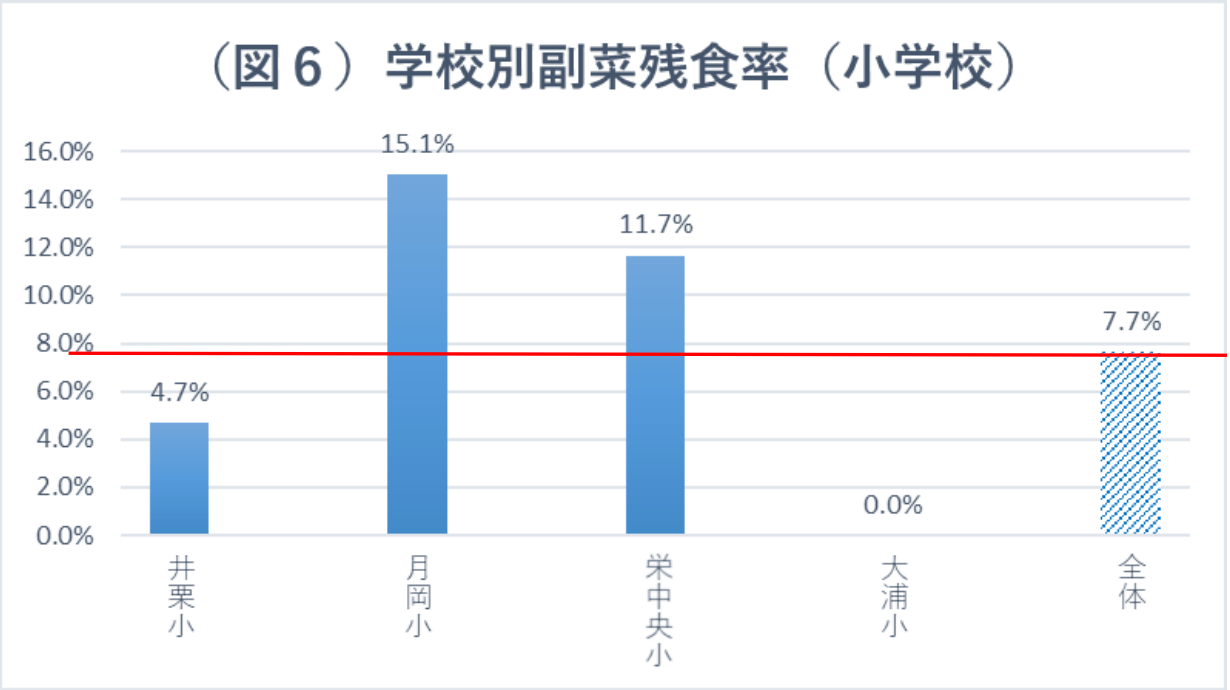


（イ）　中学校



ウ　副菜

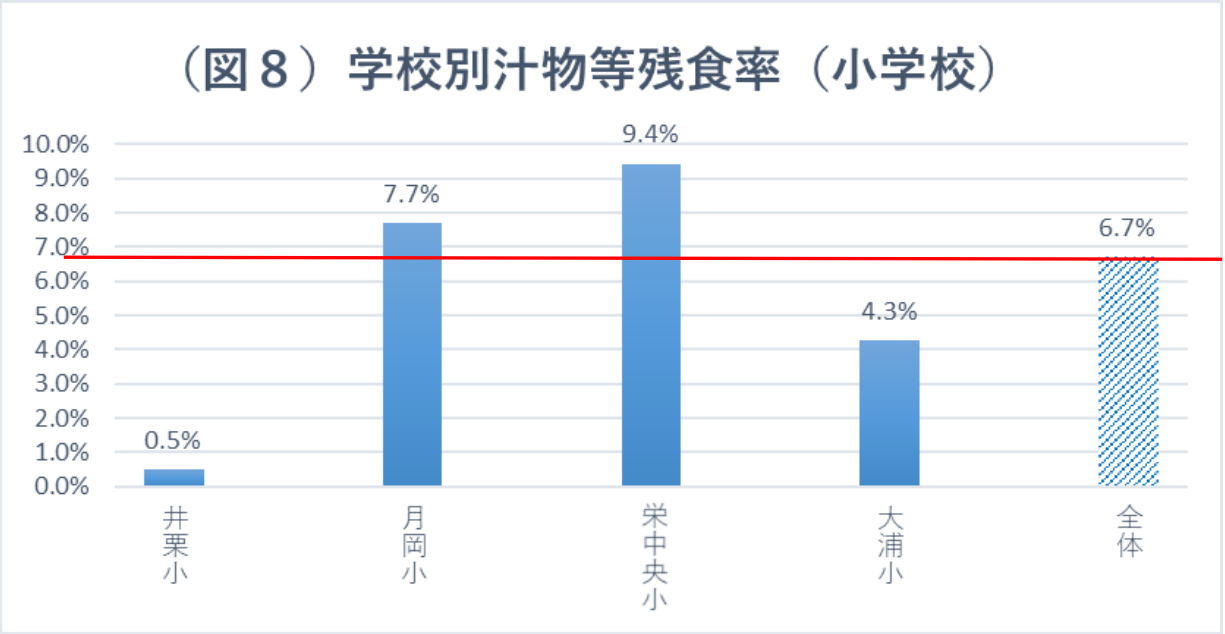
（ア）　小学校



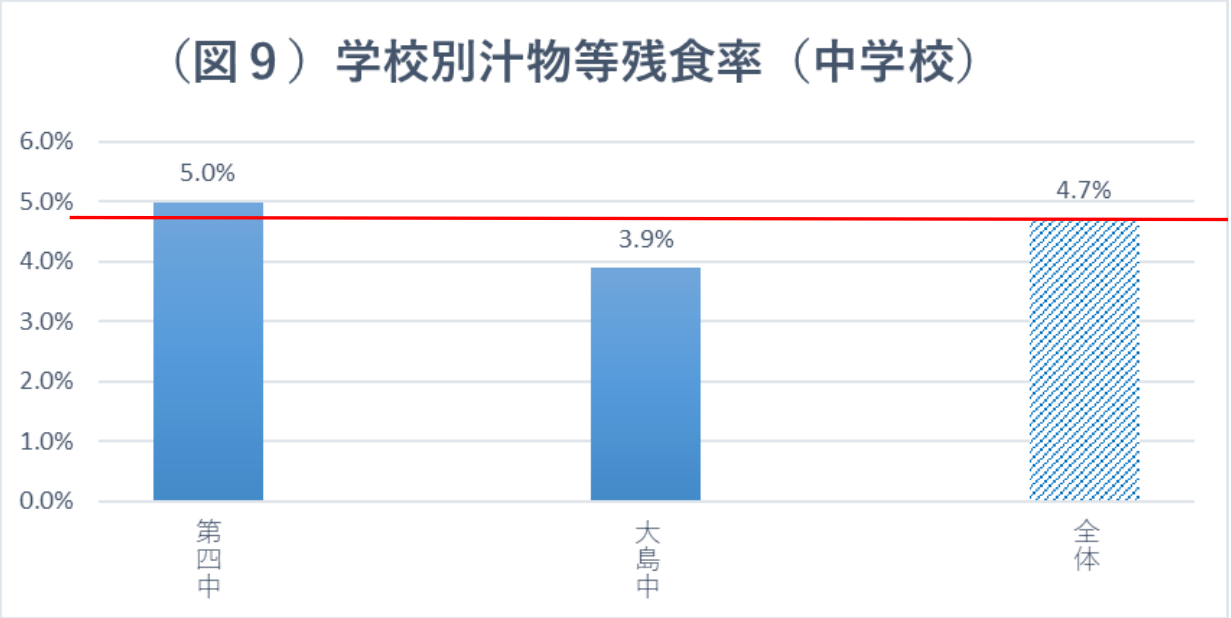
（イ）　中学校

エ　汁物等

（ア）　小学校

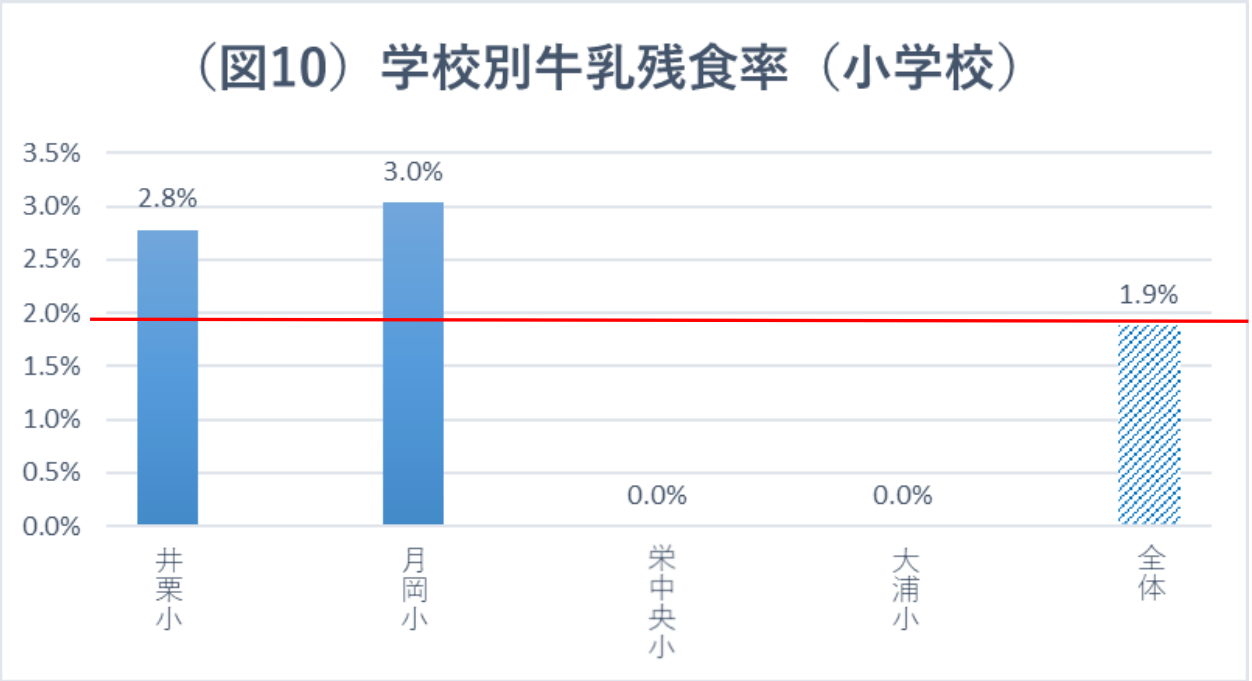


（イ）中学校

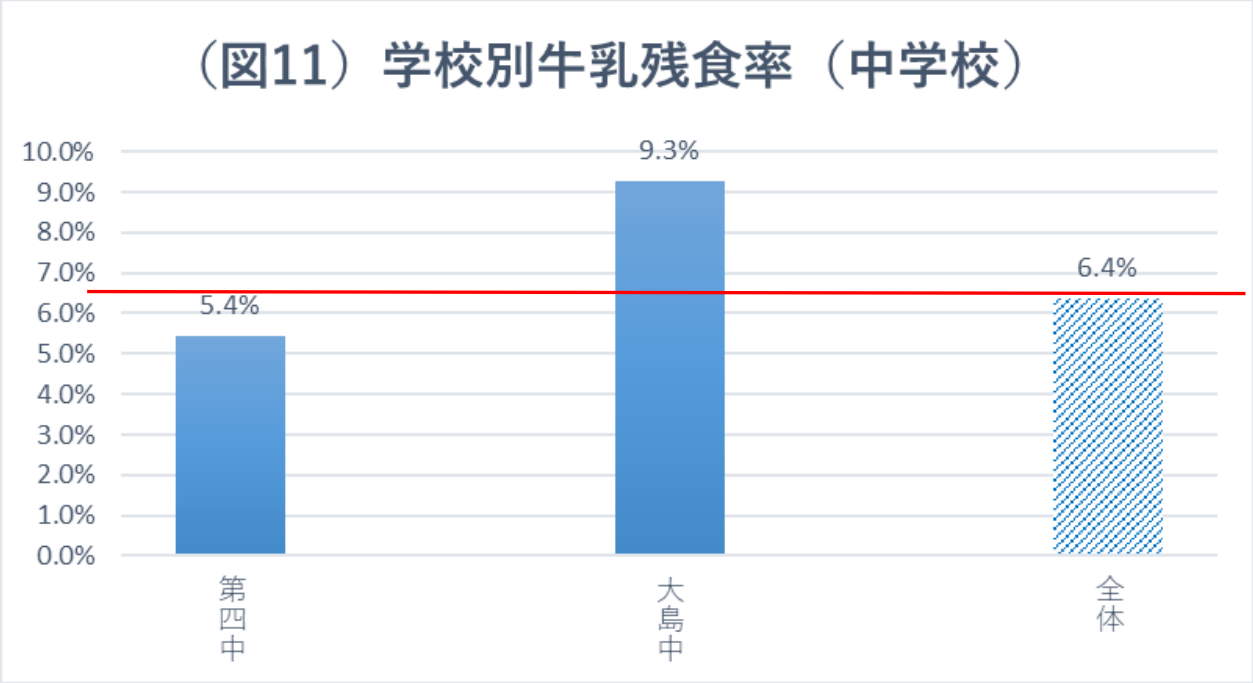


オ　牛乳

（ア）　小学校

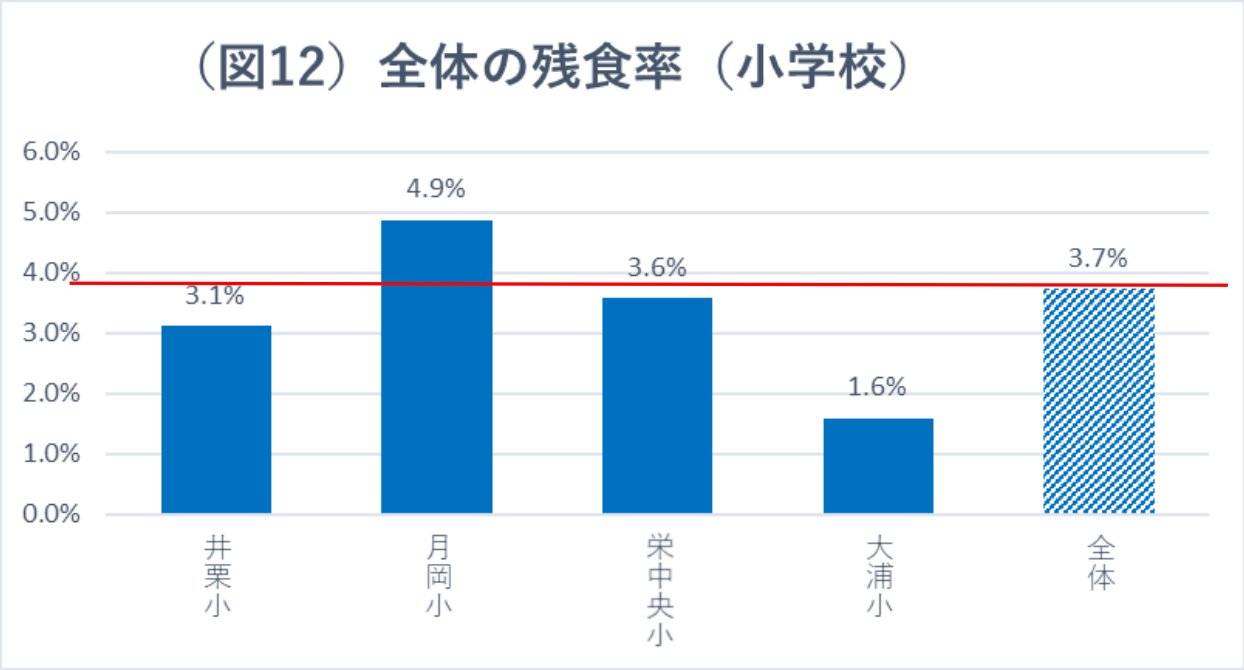


（イ）　中学校

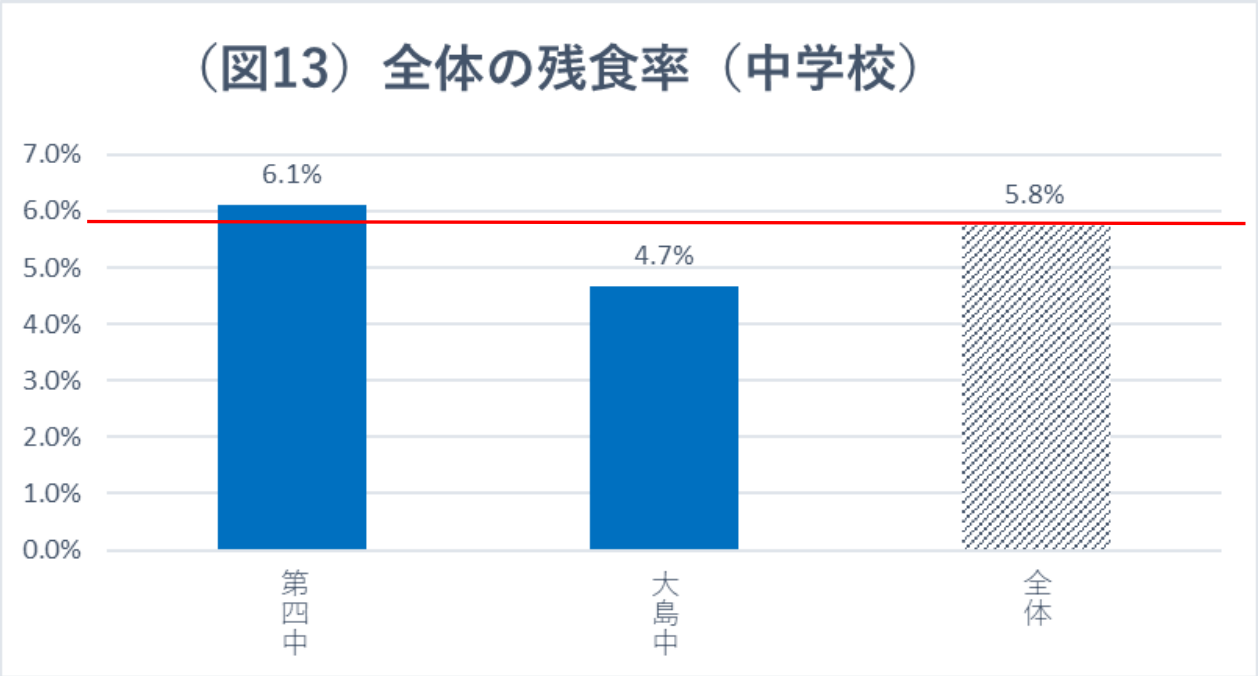


カ　全体の残食率

（ア）　小学校



（イ）中学校



7　考　　察

令和元年度の残量調査は、今後の同調査の在り方等を検討するため、従来の市内全校を対象とした調査方式に代え抽出方式とした。また、ドリンクタイムと残食との関連性と効果を確認するため、時間帯を変更した学校を抽出して行った。

図１の献立種別残食率では、全体で小中学校ともに残量が増えるという結果となっている。

小学校では主食のご飯と牛乳の残量は少ないが、副菜や汁物等、野菜を多く使用した料理の残量が増えていることが見て取れる。これは例年と同様の傾向であるが、依然として、小学校では苦手なものを残す児童が多くいることが数値や現場からの聞き取りから推測できる。

一方、中学校では全ての種別で残量が増えており、その要因について調理場等に確認したところ、給食の提供量が多いことや喫食時間が短く食べきれない生徒がいるとの情報を得ている。

また、ドリンクタイムと残食の関連性と効果では、牛乳及び全体の残食率に着目し前年の値と比較すると、栄中央小と大浦小で牛乳がゼロであることを除き、全体ではいずれも上昇していることが確認されており、結果として今回の調査からは、給食時間と切り離したことによる効果は出ておらず、実際に午前中の休み時間や放課後に牛乳だけを飲むのは難しいといった声や、同じ学校でも調査対象学年以外に、よく飲む学年と残量が多い学年があるなどの実態についても検討の余地がある。

ドリンクタイムに関しては、各学校の理解と協力の下、定着してきているところであるが、それぞれの実情を踏まえ柔軟に対応していくことが更に良質な成果につながるものと考える。

以上の諸課題を踏まえ、学校、調理場及び教育委員会が連携を密にしながら必要かつ適切な指導と支援を行っていきたい。

なお、今回の調査を通じて、明確な残量を知ることや傾向を掴むことの難しさを改めて感じたことから、調査方法等を含めしっかりと検証し、今後にいかしていきたい。

8　今後の取組等

子供たちの生涯に渡る健康的な食習慣の定着を目指し、教育委員会として次の取組を推進する。

⑴　地元農産物を積極的に活用し、季節感のある献立づくりを実践する。

⑵　食に関する指導等において、バランスの良い食事や健康面とのつながり、和食の良さや文化的な価値を伝える。

⑶　給食は各年代に応じた適切な食事量を知る機会であることから、配食時には均等に盛りきる指導を行う。

⑷　十分な喫食時間を確保できるよう学校に呼びかけるとともに、スムーズな配膳について給食訪問等を通じて指導を行う。

⑸　学校現場の実情を把握するとともにドリンクタイムの在り方を検討する。

⑹　日々の残量を明確に把握し、その都度的確な対応ができるような調査方法を検討する。